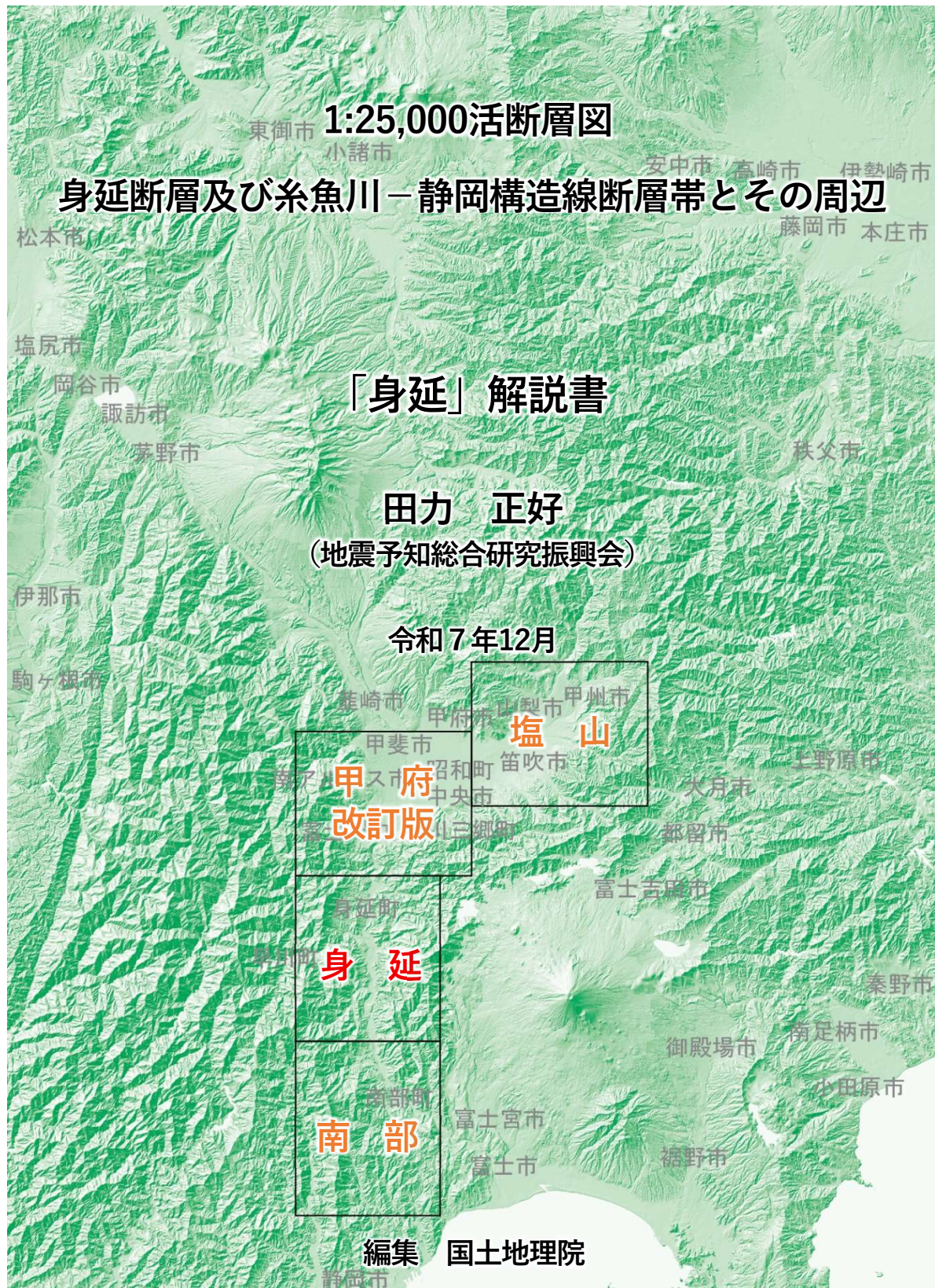
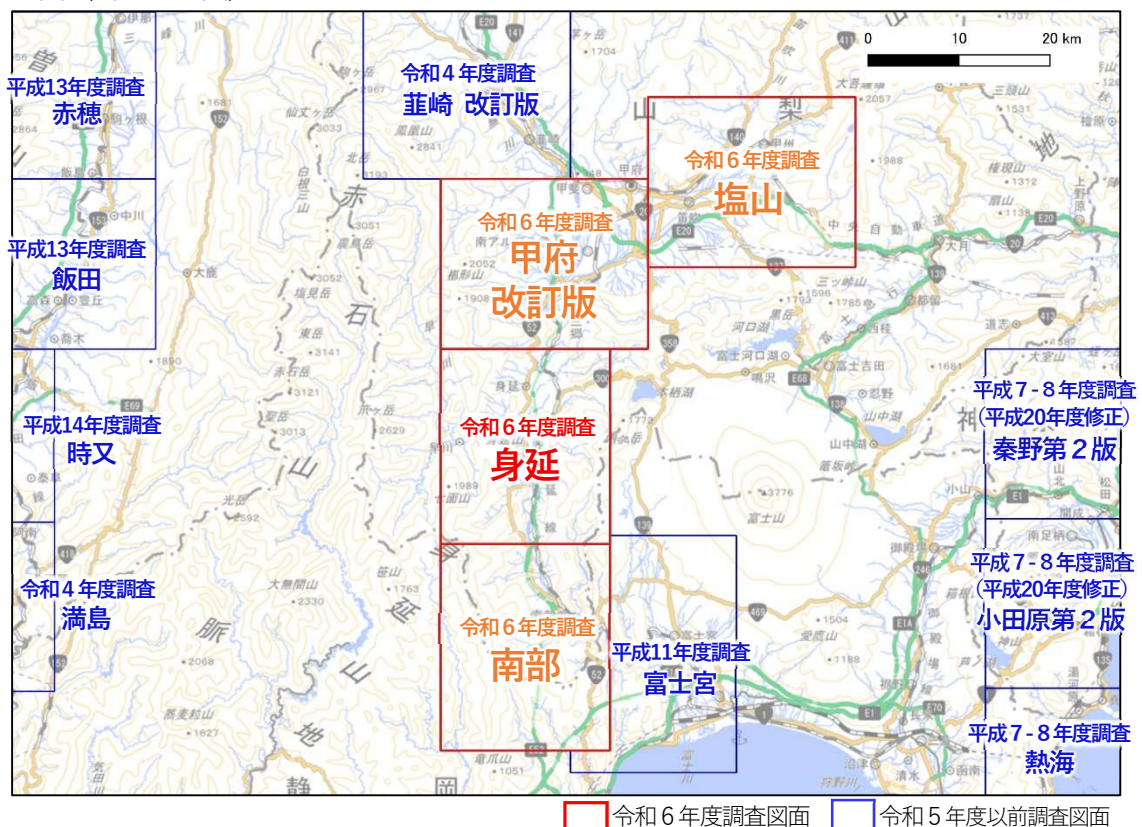




目 次

身延断層及び糸魚川－静岡構造線断層帯とその周辺「身延」解説書

1. 身延断層	2
2. 富士見山断層群	5
3. 西乗川断層	9
4. 市川三郷町落居から岩間に至る断層	10
5. 市川三郷町城山西方の断層	10
6. 身延町三澤付近の断層	11
7. 身延町宮木付近の断層	11
8. 南部町三石山西方の断層	12
引用文献	13
調査に使用した諸資料及び検討委員会等	15
付図（断層索引図）	18



1:25,000活断層図「身延」作成位置図

1:25,000活断層図 身延断層及び糸魚川－静岡構造線断層帯とその周辺「身延」解説書

身延断層は、山梨県南巨摩郡身延町から同郡南部町を経て、静岡県富士宮市付近に至る北北西－南南東方向に延びる断層である。北部は主として西側が隆起する逆断層、南部は西側が隆起する逆断層成分を伴う左横ずれ断層であり、地表で確認できる長さは約 20 km とされている（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2015a）。1:25,000 活断層図「身延」（以下「本図」という。）には、身延町から南部町へと至る身延断層の北部が含まれる。なお、本図および南側隣接図面の 1:25,000 活断層図「南部」（金田ほか 2025）により、身延断層の地上で確認できる長さは約 29 km 又はそれ以上となっている。

糸魚川－静岡構造線断層帯は、長野県北安曇郡小谷村付近から、同郡白馬村、大町市、同郡池田町、安曇野市、松本市、塩尻市、岡谷市を通過し、諏訪郡下諏訪町、諏訪市、茅野市、同郡富士見町を経て、山梨県北杜市、韮崎市、南アルプス市、南巨摩郡富士川町、同郡身延町を通り、同郡早川町付近に至る、北北西－南南東方向に延びる長さ約 158 km の断層帯である（地震調査研究推進本部地震調査委員会 2015b）。

この断層帯は 4 つの区間（北より順に、北部（小谷－明科）区間、中北部（明科－諏訪湖南方）区間、中南部（諏訪湖北方－下島木）区間、南部（白州－富士見山）区間に区分される（地震調査研究推進本部地震調査委員会 2015b）。本図には、身延町から早川町に至る南部（白州－富士見山）区間の南部が含まれる。

本図には、身延断層、西乗川断層、糸魚川－静岡構造線断層帯の南部区間（白州－富士見山区間）を構成する断層のうち富士見山断層群と、その他の推定活断層を記載している。以下に、各断層の概要と判読した根拠を記載する。（下記の断層ごとの番号及び記号は、巻末の付図（断層索引図）に記載した番号及び記号に対応する。

1. 身延断層

- ・走向 : 北北西－南南東
 - ・長さ : 約 13 km
 - ・断層種別 : 活断層（左横ずれが主体、一部に伏在部を含む）、推定活断層
- （※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

身延断層は、山梨県南身延町栗倉から南側に隣接する 1:25,000 活断層図「南部」（金田ほか 2025）図面内の静岡県富士宮市橋上南東方まで、北北西－南南東方向

に延びる活断層である。

本図には身延町栗倉付近から図面の南辺（南部町北原^{きたばら}）付近まで、北北西－南南東方向に延びる長さ約 13 km の区間が記載されている。身延町栗倉から同町小田^{こだ}までは断続的に推定活断層が延びており、同町小田付近から南部町北原付近までは左横ずれ活断層が連続的に分布する。また、富士川東岸には身延町丸滝^{まるたき}付近から同町樋之上^{ひのうえ}付近までの区間に左横ずれ活断層と推定活断層が、身延町大島^{おおしま}付近には推定活断層がそれぞれ分布している。

（２）判読根拠

本断層の主な地点ごとの判断根拠は次の通りである。

1a： 身延町栗倉付近から同町杉山^{あわぐらやま}付近まで栗倉山の東麓沿いに延びる推定活断層である。山麓線が明瞭な地形境界をなし直線的に延びること、身延町山額^{やまびた}付近において段丘面の可能性のある平坦面に東向きの崖が認められることから、西上がり断層変位が推定される。ただし、山額付近の地形が不明瞭で段丘地形ではない可能性も考えられるため、断層変位は確実とはいえない。既存資料では未記載で、本図で初めて記載された断層である。

1b： 身延町栗倉付近に北北西－南南東方向に延びる短い推定活断層である。上栗倉付近の下位段丘面に逆向きの直線的な崖が発達することから、断層の北東上がり変位が推定される。ただし、この下位段丘面は地すべり地形の可能性があり、崖地形も地すべりに起因する可能性も考えられるため、確実に活断層によるものとはいえない。既存資料では未記載で、本図で初めて記載された断層である。

1c： 早川町初鹿島^{はじかじま}付近の山中に位置する西北西－東南東方向に延びる推定活断層である。断層を横切る多くの河谷に左屈曲が認められることから、断層の左横ずれ変位が推定される。ただし、屈曲のほとんどが非常に小規模でかつ明瞭でなく、断層変位は確実とはいえないことから、本図では推定活断層とした。既存資料では未記載で、本図で初めて記載された断層である。

1d： 身延町身延^{みのぶ}付近の身延山南東麓沿いに北東－南西方向に延びる推定活断層である。明瞭かつ直線的な地形境界をなし山地高度の食い違いが認められることから、断層の北西上がり変位が推定される。ただし、段丘面等、第四紀後期の地形を変位させるような断層変位地形は認められないため、本図では推定活断層とした。既存資料では未記載で、本図で初めて記載された断層である。

1e： 身延町^{みのぶ}身延付近から同町^{あいまた}相又付近まで、波木井川^{はきい}の西岸の山麓沿いにほぼ南北方向に延びる推定活断層である。この断層が身延町小田付近の下位段丘面を通過する地点（写真1）に東向きの崖が認められることから、断層の西上がり変位が推定される。ただし、崖地形が不明瞭で明確に直線的な形態を示さないことから、重力的な変形や土石流の末端の地形である可能性も考えられるため、確実とはいえず、本図では推定活断層とした。この推定活断層沿いには、身延町相又付近^{おおじろ}の大城川の河床に、西八代層群^{にしやつしろ}御殿山層^{ごてんやま}の凝灰質砂岩及び泥岩が河床礫に衝上する断層露頭が知られている（活断層研究会編 1991）。ただし、この断層露頭についても河床礫の年代が明確ではないことから確実な活断層の露頭とはいえない。本区間は地質断層としての身延断層にほぼ一致するが、水本ほか（2016）の身延断層北端部に相当する相又付近の一部を除いて、活断層としては報告されておらず、本図で初めて変動地形学的に活断層である可能性が指摘された断層である。



写真1 身延町小田付近の推定断層崖（2024年12月3日筆者撮影）。

下位段丘面上の東向きの推定断層崖を南東から望む。推定断層崖は緩やかに東方へ傾斜している。

1f： 身延町^{あいまた}相又付近から南部町北原付近まで、ほぼ南北方向に延びる活断層である。北部では相又川東岸の谷壁沿いに分布し、南部では山地中に明瞭なリニアメント（直線的な地形）として連続する。南部の身延町^{かめくぼ}亀久保付近で2条の断層に分岐する。断層沿いの全域にわたって、断層を横切る多くの河谷が明瞭かつ系統的な左屈曲を示すことから、確実な左横ずれ断層と認定される。本断層は水本ほか（2016）の身延断層の一部に相当するものと考えられるが、北端部付近と南部の分岐する箇所では本図と位置形状がやや異なる。

1g: 身延町丸滝付近から同町和田^{わだ}付近まで、北北東－南南西方向に延びる推定活断層である。断層を横切る複数の河谷に左屈曲が認められることから、断層の左横ずれ変位が推定される。ただし、ほとんどの河谷の屈曲は緩やかで不明瞭であることから断層変位は確実とはいえず、本図では推定活断層とした。既存資料では未記載で、本図で初めて記載された断層である。

1h: 身延町和田付近にほぼ南北方向に発達する活断層である。断層を横切る多くの河谷が明瞭な左屈曲を示すことから、確実な左横ずれ断層と認定できる。本断層は渡辺ほか（2017）の和田断層^{わだ}に相当するものであり、位置形状は概ね一致するが、南端部付近ではやや異なる。断層の北部では、最終間氷期以降に堆積した砂礫層を変位させる活断層露頭が報告されている（渡辺ほか 2017）。

1i: 身延町大島付近に西北西－東南東に延びる推定活断層である。断層を横切る複数の河谷が左屈曲を示すこと、分離丘状の小丘が発達することから、断層の左横ずれ変位が推定される。ただし、河谷の屈曲は非常に軽微で明瞭ではないため断層変位は確実とはいえず、本図では推定活断層とした。本断層は地質断層である向平川断層（杉山・松田 2014）と位置がほぼ一致しており、向平川断層が再活動したものである可能性が考えられる。なお、河谷の屈曲は不明瞭なため本図では図示していない。

1j: 身延町湯別^{ゆべつとう}当に位置し、北北東－南南西方向に延びる推定活断層である。断層を横切る河谷が左屈曲していることから、断層の左横ずれ変位が推定される。ただし、屈曲する河谷が2条のみで系統的とまではいえないことから、断層変位は確実とはいえず、本図では推定活断層とした。既存資料では未記載で、本図で初めて記載された断層である。

2. 富士見山^{ふじみやま}断層群

- ・走向 : 北北東－南南西
- ・長さ : 約8 km
- ・断層種別 : 推定活断層

（※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

(1) 概要

富士見山断層群は、身延町と早川町の境界に位置する富士見山の東側山麓沿いに位置し、隣接する 1:25,000 活断層図「甲府 改訂版」(山中ほか 2025, 以下『甲府』という。)図面内富士川町駅前通二丁目付近から早川町笹走^{ささばしり}まで、北北東-南南西方向に延びる長さ約 8km の推定活断層群である。本断層群は大塚(1938)で初めて存在が指摘され、久保田ほか(1989)により詳しい記載がなされている。長短 11 条の断層からなり(2a~2k)、富士見山東麓沿いの断層(2a~2b)では西上がりの縦ずれ変位、東方の丘陵地中に発達する断層(2c~2k)では西上がり変位と東上がり変位が混在する。また、一部の断層では右横ずれ変位を示唆する河谷の屈曲が認められる。

(2) 判読根拠

本断層の主な地点ごとの判断根拠は次の通りである。

2a: 富士見山の東麓は、山地と丘陵地の明瞭な地形境界をなしており、その地形境界に沿って推定活断層が分布する。この断層が身延町荻付^{おぎ}付近および堂平^{どうたいら}付近を横切る地点において上位段丘面上に東向きの崖が形成されており、断層の西上がり変位が推定される。しかし、崖の形状が明瞭に直線的な形態を示していないことから、地すべり等によって形成された可能性もあるため確実な活断層とは言えず、本図では推定活断層とした。また、本断層の北端付近と南端付近を横切る河谷に右屈曲が認められることから、右横ずれ変位を伴う可能性も考えられる。ただし、これら河谷の屈曲は非常に小規模で明瞭さに欠くことから、右横ずれ変位も確実ではない。本断層は久保田ほか(1989)の富士見山逆断層の北半部にほぼ一致する。

2b: 富士見山の東麓沿いに発達する推定活断層のうち、身延町窪付^{ふくはら}付近から早川町笹走^{ささばしり}付近へと至る区間である。この断層が身延町福原^{ふくはら}付近、同町梨子^{なしご}付近、早川町笹走^{ささばしり}付近を横切る地点(写真 2)において、上位・中位段丘面上に東向きの崖が形成されており、断層の西上がり変位が推定される。しかし、崖は段丘面を切断するような明瞭な形態を持たず、地すべり等によって形成された可能性も考えられるため、断層変位は確実とは言えず、本図では推定活断層とした。本断層は久保田ほか(1989)の富士見山逆断層の南半部にほぼ一致する。

2c: 身延町上大塩^{かみおおしお}の西方に位置するほぼ南北方向の推定活断層で、その両側の中位段丘面に高度差があることから西上がり変位が推定される。ただし、中位段丘面の対比が確実ではないため断層変位も確実とはいえず、本図では推定活断層とした。



写真2 早川町笹走付近の断層崖 (2024 年 12 月 3 日筆者撮影)。

上位段丘面に東向きの崖 (推定断層崖) が発達する。推定断層崖は非常に緩やかに東方へ傾斜しているが、これが初生的な形態か侵食等により従順化 (斜面がなだらかになること) したものかは不明である。

2d: 身延町上大塩付近に位置するほぼ南北方向の推定活断層で、その両側で丘陵の高度が食い違っていることから東上がり変位が推定される。ただし、丘陵の形成年代が明確ではないこと、下位段丘面の変位が不明確なことから断層変位は確実とは言えず、本図では推定活断層とした。既存資料では未記載で、本図で初めて記載された断層である。

2e: 身延町^{くなり}久成付近に位置するほぼ南北方向の推定活断層で、その両側で丘陵の高度が食い違っていることから東上がり変位が推定される。ただし、丘陵の形成年代が明確ではないため断層変位も確実とは言えず、本図では推定活断層とした。今泉ほか編 (2018) で記載された推定活断層と一部区間で一致する。

2f: 身延町平須付近に位置する北北東-南南西方向の推定活断層で、上位段丘面を横切る地点 (写真3) に明瞭かつ直線的な逆向き崖が認められることから、断層の東上がり変位が推定される。断層変位は確実であるが、上位段丘面をわずかに変位させているのみであり、変位の累積性や最近の活動性は確実とはいえないことから、本図では推定活断層とした。久保田ほか (1989) の^{ひらす}平須断層群の一部に相当する。



写真3 身延町平須付近の推定断層崖（2024年12月3日筆者撮影）。

上位段丘面に逆向き（西向き）の推定断層崖が発達する。崖の比高（断層の上下変位量）は数m程度である。手前側の道路部分は人工改変されているため、崖地形は失われている。

2g： 身延町平須の東部に位置する北北東－南南西方向の推定活断層で、上位段丘面を横切る地点で逆向きの崖が認められることから東上がり変位が推定される。ただし、断層の両側の上位段丘面の対比が不明確であることから確実とはいえず、本図では推定活断層とした。今泉ほか編（2018）で記載された推定活断層と概ね一致する。

2h： 身延町平須の東方に位置するほぼ南北方向の推定活断層であり、その両側で上位段丘面の高度が食い違っていることから断層の東上がり変位が推定される。ただし、断層の両側の上位段丘面の対比が不明確であるため確実とは言えず、本図では推定活断層とした。既存資料では未記載で、本図で初めて記載された断層である。

2i： 身延町日向南^{ひなたみなみざわ}沢付近から同町中山^{なかやま}付近まで延びる北北東－南南西方向の推定活断層で、上位段丘面を横切る2地点で東向きの崖が認められることから、断層の西上がり変位が推定される。ただし、崖地形は不明瞭であり崖の両側の段丘面の対比も不明確であることから確実とはいえず、本図では推定活断層とした。今泉ほか編（2018）の推定活断層と一部区間で一致する。

2j： 身延町矢細工^{やさいく}付近に位置する北北東－南南西方向の推定活断層で、これを境に東側の丘陵高度が高くなっていることから東上がり変位が推定される。ただし、最近

の活動を示す変位地形は見られないため確実とは言えず、本図では推定活断層とした。今泉ほか編（2018）の推定活断層とほぼ一致する。

2k： 身延町^{よごさわ}夜子沢付近から同町^{おそざわ}遅沢付近まで延びるほぼ南北方向の推定活断層で、これを境に丘陵高度の食い違いが認められることから、断層の東上がり変位が推定される。ただし、最近の活動を示す変位地形は認められないことから、断層変位は確実ではなく、本図では推定活断層とした。既存資料では未記載で、本図で初めて記載された断層である。

3. ^{にしのりがわ}西乗川断層

- ・走向 : 北北西－南南東
- ・長さ : 約 0.5 km
- ・断層種別 : 活断層（左横ずれが主体）

（※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

南部町^{にしのり}西乗付近から南側に隣接する 1:25,000 活断層図「南部」（金田ほか 2025）図面内の静岡県富士宮市^{きたがやと}北谷ヶ戸付近まで、北西－南東方向に延びる活断層である。本図には南部町西乗から図面の南辺まで、北北西－南南東方向に延びる長さ約 0.5 km の区間が記載されている。

本断層は今回の調査で新たに確認された活断層であるが、尾崎・杉山（2018）及び杉山・松田（2014）に記載されている地質断層の西乗川断層に沿うことから、活断層名としても同様に西乗川断層とした。

（2）判読根拠

西乗川断層は 1:25,000 活断層図「南部」図面内では系統的な河谷の左屈曲から確実な左横ずれ活断層と認定されている（金田ほか 2025）。本図内の断層はその北方延長部であり、西乗付近で明瞭な河谷の左屈曲が認められることから、本図内でも同様に確実な活断層と判断した。

その他の推定活断層としては、市川三郷町^{いちかわみさとちようおちい}落居から岩間^{いわま}に至る断層、市川三郷町^{いちかわみさとちようしるやま}城山西方の断層、身延町^{みのぶちようみさわ}三澤付近の断層、身延町^{みのぶちようみやき}宮木付近の断層、南部町^{なんぶちようみつしやま}三石山西方の断層が記載されている。

4. ^{いちかわみさとちょう おちい}市川三郷町落居から^{いわま}岩間に至る断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約1 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

北側に隣接する『甲府』図面内の市川三郷町落居から、本図の同町岩間まで延びる推定活断層である。本図には図面の北辺から同町岩間まで、右横ずれ変位を主体とし、北東－南西方向に延びる長さ約1 kmの区間が記載されている。既存資料では未記載で、『甲府』及び本図で初めて記載された断層である。

(2) 判読根拠

直線的な形態を示す河谷と北方の山地の境界部付近に発達する推定活断層であり、断層を横切る多くの河谷が右屈曲を示すことから、断層の右横ずれ変位が推定される。ただし、直線的な地形がやや不明瞭であること、多くの河谷の屈曲も明瞭ではないことから、断層変位は確実とは言えず、本図では推定活断層として記載した。

5. ^{いちかわみさとちょうしろやま}市川三郷町城山西方の断層

- ・走向 : 北北東－南南西
- ・長さ : 約1 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

市川三郷町の城山西方に位置し、北北東－南南西方向に延びる長さ約1 kmの推定活断層である。既存資料では未記載で、本図で初めて記載された断層である。

(2) 判読根拠

城山の西麓に発達する北北東－南南西方向の推定活断層であり、それを横切る多くの河谷が右屈曲を示すことから、断層の右横ずれ変位が推定される。ただし、河谷の屈曲は非常に小規模で明瞭さにやや欠けることから、本図では推定活断層とした(写真4)。



写真4 市川三郷町城山西方の断層の南端付近の河谷の屈曲（2024年12月4日筆者撮影）。
推定活断層を横切る小河谷が右屈曲している。ただし、屈曲は明瞭でなく人工改変もされているため、確実な断層変位とは言えない。

6. 身延町三澤^{みのぶちようみさわ}付近の断層

- ・走向 : 東北東－西南西
- ・長さ : 約3 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

身延町三澤付近に位置する、東北東－西南西方向に延びる長さ約3 kmの推定活断層である。既存資料では未記載で、本図で初めて記載された断層である。

(2) 判読根拠

東北東－西南西方向に延びる推定活断層であり、断層を横切る複数の河谷が右屈曲を示すことから、断層の右横ずれ変位が推定される。ただし、屈曲が不明瞭な河谷が多いため確実とは言えず、本図では推定活断層とした。なお、本図では大石集落付近の比較的明瞭な河谷の屈曲のみ表示している。

7. 身延町宮木^{みのぶちようみやぎ}付近の断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約1 km

・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

身延町宮木付近に位置し、北東－南西方向に延びる長さ約1 km の推定活断層である。
既存資料では未記載で、本図で初めて記載された断層である。

(2) 判読根拠

西流する富士川の小支流群を堰き止めるように北東－南西方向の狭長な高まりが発達し、この高まりの北側の大谷津集落付近では閉塞凹地状の小盆地（写真5）が形成されていることから、西上がりの断層変位が推定される。ただし、段丘面の変位など新期の活動を示す地形が認められないため、本図では推定活断層として記載した。



写真5 身延町大谷津付近の閉塞凹地状の小盆地（2024年12月4日筆者撮影）。
東方の山地から西方へ流れる小支流群が堰き止められて形成された可能性が考えられる。

8. 南部町三石山^{なんぶちょうみつしやま}西方の断層

・走向 : 北北西－南南東
・長さ : 約2 km
・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

南部町の三石山の西方に位置し、北北西－南南東方向に延びる長さ約2 km の推定活断層である。既存資料では未記載で、本図で初めて記載された断層である。尾崎・杉山

(2018) 及び杉山・松田 (2014) に記載されている地質断層としての西乗川断層と近接しているが、東方へ 300 m ほど離れており、本断層との関連は不明である。

(2) 判読根拠

三石山西方の東向き山地斜面に逆向き（西向き）の崖が認められることから、東上がりの断層変位が推定される。ただし、崖地形が不明瞭であり、組織地形（地殻変動とは直接の関係無しに、侵食のされやすさが異なる複数の岩石間で不均等に侵食が進むことによってできる地形）の可能性も考えられることから、本図では推定活断層として記載した。

（（公財）地震予知総合研究振興会主任研究員 田力 正好）

引用文献

- 今泉俊文・宮内崇裕・堤 浩之・中田 高編 2018. 『活断層詳細デジタルマップ [新編]』東京大学出版会.
- 大塚弥之助 1938. 山梨県南西部富士見山断層崖の地質学的考察. 地理学評論. 14(12):1-16.
- 尾崎正紀・杉山雄一 2018. 身延地域の地質. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 活断層研究会編 1991. 『新編 日本の活断層—分布図と資料—』東京大学出版会.
- 金田平太郎・田力正好・千田 昇・中田 高・渡辺満久 2025. 『1:25,000 活断層図「南部」』国土地理院.
- 久保田勲・浅川一郎・平川一臣・今泉俊文 1989. 巨摩山地・富士見山東麓の活断層. 活断層研究 7: 43-48.
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会 2015a. 身延断層の長期評価.
https://www.jishin.go.jp/main/chousa/15apr_chi_kanto/ka_16.pdf. (2025 年 6 月 16 日閲覧)
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会 2015b. 糸魚川—静岡構造線断層帯の長期評価 (第二版).
https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/41_42_44_itoigawa-shizuoka_2.pdf.
(2025 年 6 月 16 日閲覧)
- 杉山雄一・松田時彦 2014. 南部地域の地質. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 水本匡起・後藤秀昭・中田 高・松田時彦・田力正好・松浦律子 2016. 富士川谷の身延断層に沿った新期断層変位地形の発見とその意義. 活断層研究 44: 9-21.

- 山中 蛭・澤 祥・杉戸信彦・松多信尚・太田凌嘉 2025. 『1:25,000 活断層図「甲府 改訂版」』
国土地理院.
- 渡辺満久・中田 高・水本匡起 2017. 富士川谷に見いだされた断層変位地形と断層露頭. 活断層
研究 46: 9-15.

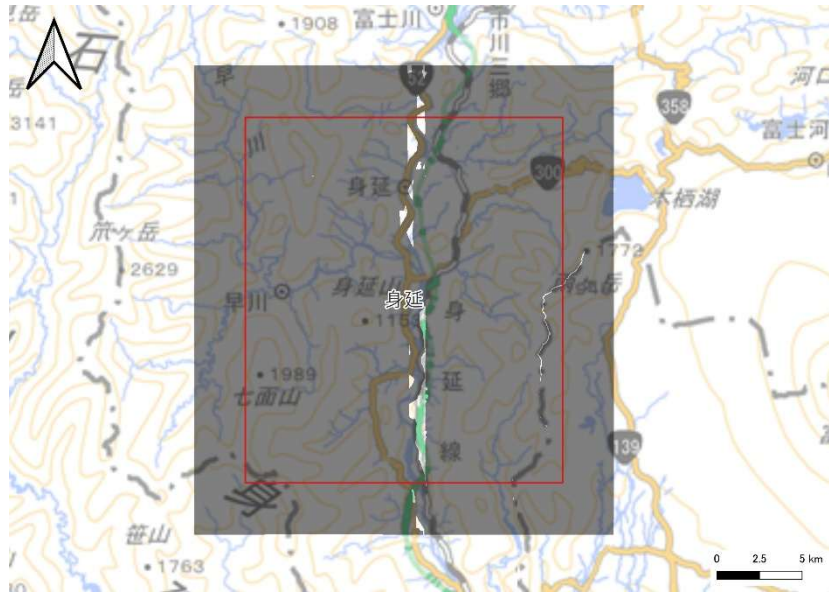
調査に使用した諸資料及び検討委員会等

1) 使用した空中写真

撮影計画機関（種別）	撮影縮尺	地区番号又はコース番号
米軍（モノクロ）	およそ 1/10,000	R376, R204
米軍（モノクロ）	およそ 1/40,000	M401, M1010-3R, M1171, M1242, M1249
林野庁（モノクロ）	1/20,000	山-352
国土地理院（モノクロ）	およそ 1/20,000	CB571YZ, MCB691X
国土地理院（カラー）	1/15,000	CCB7517, CCB7615, CCB7618, CCB7619

2) 使用した航空レーザ測量データ

測量計画機関	計測年度	業務名
関東地方整備局富士川砂防事務所	2009	H21 大規模崩壊地対策航空レーザ計測その3業務
関東地方整備局甲府河川国道事務所	2013	H24 富士川航空レーザ測量業務
中部地方整備局富士砂防事務所	2012	平成23年度富士山麓（富士山）航空測量業務
中部地方整備局富士砂防事務所	2012	平成24年度富士山南西野溪航空測量業務
中部地方整備局河川部	2020	令和2年度中部地方整備局管内航空レーザ測量業務
静岡県交通基盤部	2021	令和3年度安倍川圏域ほか基礎調査業務委託（静岡県中・西部航空レーザ測量）
静岡県交通基盤部	2021	令和3年度静岡県東部航空レーザ測量業務委託



航空レーザ測量データ使用範囲（グレー色塗りつぶし部：データ使用部，赤枠：図郭）。

3) 地形分類に使用した資料

地形分類については，下記資料のほか，国土地理院の治水地形分類図，国土庁や各都道府県で実施した土地分類基本調査の地形分類図および表層地質図，防災科学技術研究所の「1:50,000 地すべり地形分布図」等を参考にして，空中写真および数値標高モデル（DEM）を用いて国土地理院が作成した。

- ・尾崎正紀・杉山雄一 2018. 身延地域の地質. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅)，産業技術総合研究所地質調査総合センター。
- ・久保田 勲・浅川一郎・平川一臣・今泉俊文 1989. 巨摩山地・富士見山東麓の活断層. 活断層研究 7:43-48.
- ・杉山雄一・松田時彦 2014. 南部地域の地質. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅)，産業技術総合研究所地質調査総合センター。
- ・水本匡起・後藤秀昭・中田 高・松田時彦・田力正好・松浦律子 2016. 富士川谷の身延断層に沿った新期断層変位地形の発見とその意義. 活断層研究 44:9-21.
- ・渡辺満久・中田 高・水本匡起 2017. 富士川谷に見いだされた断層変位地形と断層露頭. 活断層研究 46:9-15.

4) 全国活断層帯情報整備検討委員会

a. 委員会等の開催

第 1 回委員会

令和 6 年 6 月 12 日(水)

オンライン会議

第 2 回委員会

令和 6 年 12 月 23 日(月)

国土地理院関東地方測量部

第 1 回活断層図作成部会

令和 6 年 9 月 6 日(金)

第2回活断層図作成部会

国土地理院関東地方測量部
令和6年11月18日(月)

第3回活断層図作成部会

イオンコンパス東京八重洲会議室
令和6年12月23日(月)
国土地理院関東地方測量部

b. 身延断層及び糸魚川－静岡構造線断層帯とその周辺「身延」の調査担当者（令和6年度）

図名	氏名	所属
身延	○ 田力 正好	地震予知総合研究振興会主任研究員
	中田 高	広島大学名誉教授
	松多 信尚	岡山大学教授
	渡辺 満久	東洋大学教授

○印は、全体のとりまとめを担当した委員，その他の委員は五十音順。

5) 連絡先

国土地理院応用地理部地理情報処理課
〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
電話：029（864）1111（代表）

6) 引用する場合の記載例

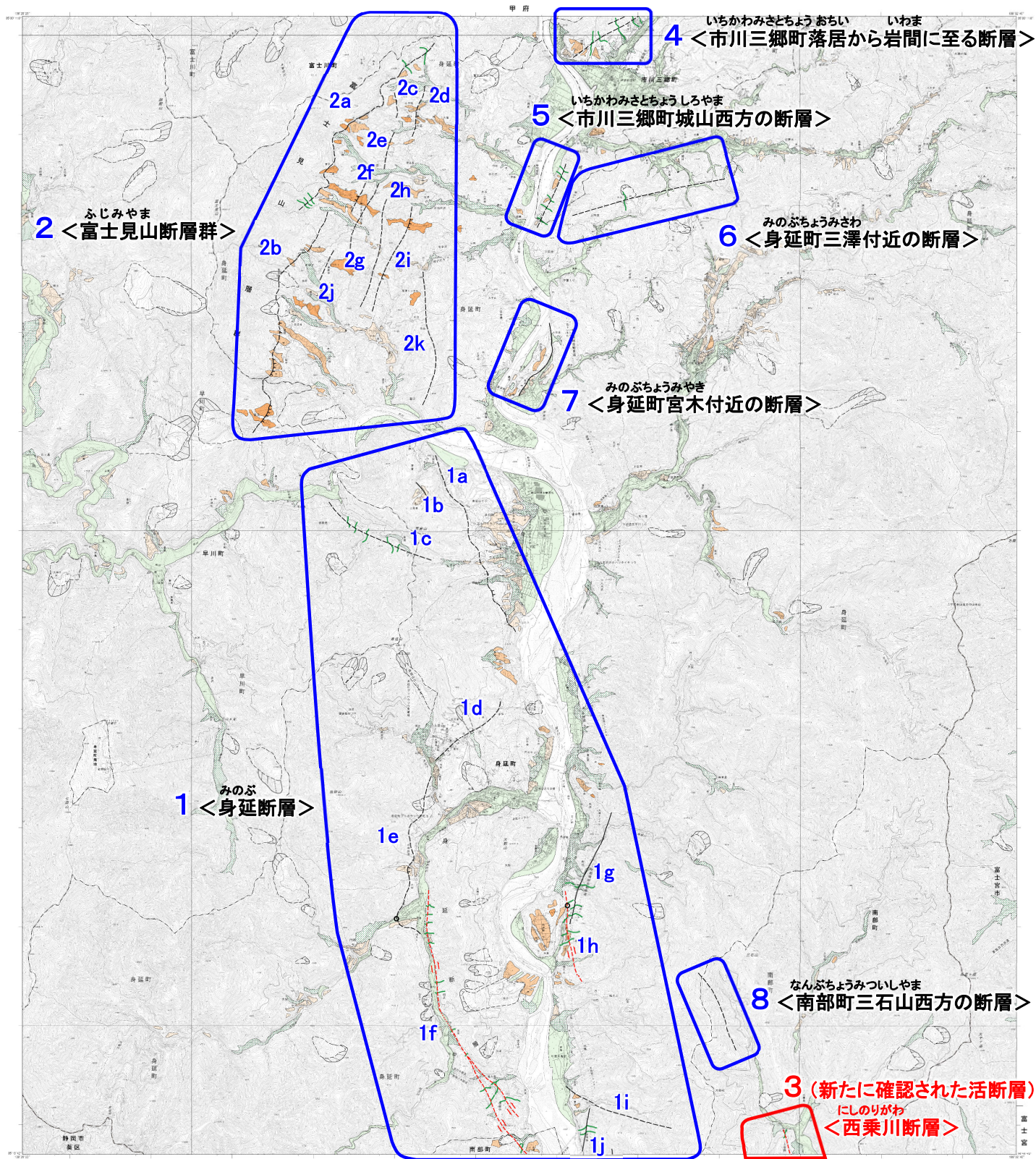
a. 図を引用する場合

田力正好・中田 高・松多信尚・渡辺満久（2025）：1:25,000 活断層図「身延」．国土地理院．

b. 解説書を引用する場合

田力正好（2025）：1:25,000 活断層図 身延断層とその周辺「身延」解説書．国土地理院，
18p.

【付図（断層索引図）】



記 号 Legend

- [illegible]

- [illegible]

利用上の注意

- [illegible]

1:25,000 身

令和 6 年度定例 - 編集
 国土地理院
 〒165-8511 東京都つくば市北第1番
 029 (064) 1111 (内線)
 国土地理院技術資料 01-No. 115